

課題名 弟島におけるオガサワラグワ保全の取組

小笠原諸島森林生態系保全センター 森 満輝

1 課題を取り上げた背景

小笠原諸島には多くの固有種が生育・生息している一方で、入植・開拓による土地利用や外来種により、生存が脅かされている種が多くいます。

オガサワラグワは固有種の中でも特に利用が進んだことにより個体数が激減し、様々な保全の取組みが行われています。今回は保全活動の現在地と今後の方向性に加え、重要な生育地である弟島での取組みを紹介します。



図1 オガサワラグワの稚樹とネズミ用防除柵

2 具体的な取組

弟島のオガサワラグワ自生地周辺で、オガサワラグワへの食害が確認されている外来ネズミ類の駆除を2年以上の間実施しています。

また、オガサワラグワの稚樹の周囲にネズミ防除用の保護柵を設置しています。

さらに、オガサワラグワと雑種を形成してしまうシマグワを駆除するために、オガサワラグワ自生地の近



図2 ネズミ駆除用の餌

傍にある孫島でシマグワの駆除に取り組んでいます。

3 取組の結果

オガサワラグワ自生地周辺での外来ネズミ類の確認頻度が非常に低い状態で保たれており、オガサワラグワの稚樹へのネズミ食害が著しく減少しています。

近年ではオガサワラグワの実生の発生数が大幅に増加しており、数年前までオガサワラグワの実生苗の生存数が年間10個体に満たない程度でしたが、直近3年間で約400個体の実生苗の生存が確認されています。そのうち約50個体が成木（開花確認）まで成長していることが確認されました。成木まで成長したオガサワラグワはネズミ食害により枯死することはないため、次世代の確保ができつつあります。

また、自生地の範囲も広がりつつあり、弟島北西部の広い地域に分布が広がってきています。

4 まとめ

オガサワラグワの保全には息の長い取組が必要ですが、大きな方向性や技術的な手法は確立されてきています。今後は必要な事柄をいかに肅々と、継続して取り組み続けることができるのかという点に集約されてきています。

当センターではエビデンスに基づきながら、関係者との連携を保ちつつオガサワラグワの保全に取り組んでいきます。